

幼児教育における構成的グループエンカウンター 実施の効用について

吉村真理子*・上田和美**

Effect of the Structured Group Encounter in Early Childhood Education

Mariko YOSHIMURA Kazumi UEDA

1. 問題と目的

「教育相談」の分類として、「治療的教育相談」、「予防的教育相談」、「開発的教育相談」がある。現在明らかな問題を抱えていない児童・生徒の、健全な成長・発達を積極的に促進する開発的教育相談の手法の一つに、「構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter: 以下SGEと呼ぶ）」（国分康孝1992,2000）がある。これは、子どもたちの人間関係作りやコミュニケーション能力の育成を支援する方法で、小学校・中学校・高等学校等でよく行われている。SGEは、子どもたちが自己や他者についての理解を深め、受容し、互いに表現し合うような活動である「エクササイズ」と、エクササイズを振り返り、そこでの気づきや感情を明確化し、分かち合うことで、活動のねらいを定着させる「シェアリング」から成っている。構成的(Structured)の意味は、「通常の授業時間という限られた時間で行う」、「リーダーがエクササイズの説明や進行、コメント等を行う」等、活動に枠を設定するということである。

核家族化、少子化、情報メディアやテレビゲームの飛躍の普及、地域における人間関係の希薄化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、複雑化している。そのなかで、子どもが、人、モノ、社会に直に触れる直接体験の機会は減少し、特に、集団の中でうまく対人関係を作ることが難しくなっている。子どもたちが人と触れ合う場を意図的に設定する活動として、SGEは大変有効であると考ええる。

エクササイズの一つである「聖徳太子ゲーム」とは、7人組の対抗戦で、他グループメンバーが一人一音発音した単語を当てるというものである。筆者（吉村）は、短期大学生や大学生、教員等を対象とし、「教育相談」の講義や教員免許状更新講習の際に同エクササイズを実施しているが、一般的な教示は、以下のようなものである。

①「今から『聖徳太子』ゲームをします。聖徳太子は、一度に7人も人の話を聞き分けることができました。皆さんもできますか？それでは、今日は実際にやってみましょ

う。」

②「まず、班で一つの言葉を考えます。7人なので七つの音からできた言葉にします。テーマは夏にします。『せーの!』と声をかける号令係も決めてください。」

③「1班から問題を前に出て一斉に叫んでください。」

号令係が司会をし、みんなの様子を見ながら3回繰り返す。

④「1班の人は何と言ったでしょうか?他の班に見られないように解答を紙に書いてください。」

全班が答えを書き終わったら1班ずつ発表する。最後に、出題した班に答えを順に1音ずつ発声してもらい、答え合わせをする。多く正解できた班が勝ちとする。

1学期が始まり少し落ち着いた5、6月頃、まだ学級や班、係などのグループ内での自分の居場所が確立できていない者もいるので、所属感を持たせることを目的として実施することなどが考えられる。さらに具体的なねらいとしては、「役割を相談して出題し、仲間意識を持つ」「友だちの話を聞こうとする積極的な傾聴姿勢を育てる」ことなどが挙げられる(国分・岡田,1996、八巻・高橋,2006)。「聖徳太子ゲーム」は、その難度からして小学校高学年以上を対象年齢としている場合が多い。しかし、ルール等を工夫することで、就学前の幼児を対象としても十分行えるエクササイズであると考えられる。ねらいとしては、「友だちと協力して役割を果たし、ゲームを楽しむ」「人の話をよく聴こうとする姿勢を身につける」等が考えられる。

本研究では、同エクササイズを取り上げ、筆者の吉村が幼児を対象として実施しても効果が得られる指導案を作成し、同上田が担任している4歳児を対象として実施した。本研究はその保育実践を録音して逐語録を起こし、検討した結果をまとめたものである。

主な変更点は、「単語を構成する音を一人一音担当して発声する」のではなく、「異なる単語を一斉に発声する」という点である。なお、上田は、教員免許状更新講習で本ゲームを体験している。

2. 保育実践記録

先生:(手製の烏帽子を被り、笏を持って登場)

昔々の大昔、聖徳太子という偉い人がおりました。聖徳太子は話を聞くことがとても上手で、7人いて7人で同時に話をしても全部聞き分けて答えることができました。人々にすごい!!と言われ、尊敬され、なんとお札の顔になりました。そのお札はお金の中で一番強い一万円札でした。今の一万円札は福沢諭吉という人だけど、先生が子どもの頃は聖徳太子だったんだよ〈現在の一万円札を見せる〉。

子ども:「すごいね!一万円札だって!」「おれ持ってるー」〈など口々に言う〉

先生:7人の話を全部聞くことができるんだよ。

子ども:ふーん・・・〈意味がよくわからないのか、あまり関心なし〉

先生:これから、チームごとにわかれて、三つの言葉を当ててもらおうよ!

子ども:「難しそう!」「やりたい!」「わかん

幼児教育における構成的グループエンカウンター実施の効用について

な一い」〈など口々に言う〉
先生：まずはぐーチームが問題を出すので、
ちょき・ぱーは答えてね。
子ども：「わかったよ。」「いいよ。」「など口々に言う」
先生：ぐーチームは廊下に来て！問題を教えるよ。
ぐー：ラッキー！！やったー。
〈みんなに聞こえない場所に移動する〉
ちょき・ぱー：ぐーだけずるい！（ちょき・ぱーチーム廊下に出てくる）
ぐー：まだ見ないで！あっちに行って！
先生：〈カードを渡す（りんご女3人・ぶどう男2人・メロン男2人）〉
このカードの果物の名前を一緒に言うよ！ちょき・ぱーチームがみんなが何て言ったか当てるからね。まずは一回やってみよう。せーの！
ぐー：りんご！ぶどう！メロン！〈一斉に言う〉
先生：そうそうその調子！もう1回練習しようね。せーの！
ぐー：りんご！ぶどう！メロン！〈一斉に言う〉
先生：では、本番いくよー。
ぐー：オー！！
先生：みなのものー待たせたの。今から問題を出す。三つの果物を言うので当ててください。ではぐーチームいくぞ、せーの！
ぐー：りんご！ぶどう！メロン！〈一斉に言う〉
ちょき・ぱー：「ぶどう！」「ぶどうはわかったよ！」「えー、なんていったのかわからない。」「えっ？何？何？もう1回！」「など口々に言う」

ぐー：りんご！ぶどう！メロン！〈一斉に言う〉
ちょき・ぱー：「えーっ！」「ぶどうは完ぺき！」「難しいね！！」〈など口々に言う〉
先生：ぐーチームは廊下で待ってよう！ちょき・ぱーチームは相談タイム。
ちょき・ぱー：メロンもあったよー。だめだよ、聞かれちゃう！
ぐー、先生：もーいいかい？
ちょき・ぱー：決めた！決めた！あともう一つ！！うーん、けど決まった。
先生：ではぐーチームさん。当たっていたら「よかろう」と言ってね。先にちょきチームさんから答えてね。
ぱー：えーっ、ずるっ〈小さな声〉
先生：「ゆーてみよー」って声をかけよう。せーの。
ぐー：ゆーてみよー。
ちょき：メロンとぶどうとみかんかもも。
ぱー：えーっ。
先生：メロンはあってる？カードを見せてみよう。
ぐー：よかろう！〈メロンのカードを出す〉
先生：ぶどうは？
ぐー：よかろう！〈ぶどうのカードを出す〉
先生：ももは？
ぐー：ぶーっ！ぶーっ！
先生：じゃあはずれたので「ダメじゃ、ダメじゃー」と言おう。
ぐー：ダメじゃ、ダメじゃー。
ちょき：うーっ。
先生：ぱーチームはぶどうとメロンともう一つわかる？
ぱー：わからない。

先生：ではちょきさんぱーさん。ぐーチーム
さんに「参りましたー」と言いましょう。

ちょき・ぱー：参りましたー。

先生：ぐーチーム、正解を教えてあげましょう。

ぱー：メロンとぶどうはわかったよ。

先生：～くんが言ったのはぶどう。

～くんが言ったのはメロン。

～ちゃんたちが言ったのはりんご。

子ども：おれりんごってわかってたよ。

先生：今りんごって言ったからでしょ。

今の勝負はぐーチームの勝ち。

ぐー：イエーイ！！！！

先生：次はちょきチームです。

ちょき：イエーイ。

ぱー：ぐーチーム一緒にやろうぜー。

ぐー：いいよー。

〈ちょきチーム、廊下に出る。〉

先生：〈カードを渡す（いちご女4人、すいか
男3人、レモン男2人）〉

〈ぐーチームと同様に、ルールを教え発声練習
をする〉

〈その間クラスでは、ぐー・ぱーチームが問題
を予想している〉

「いちごが出てない！パインとみかんも。」

先生：ちょきチームの問題じゃー。

ぐー・ぱー：いちご、いちご。

先生：今度は果物が変わりました。また三つ
の果物を当てるんだよー。

子ども：いちごとえーっと。

先生：ではいきますよー、せーの。

ちょき：いちご！すいか！レモン！（一人だ
けタイミングがずれ、先にレモンと言
ってしまう）

先生：えー、言っちゃったの！？

ぐー：わかった！わかった！レモンだー。

先生：もう一回言って。いくよー、せーの。

ちょき：〈小さな声で〉

先生：言わないとわからないよ！がんばって
せーの。

ちょき：いちご！すいか！レモン！

先生：じゃー、相談して決めてね。

〈ちょきチームは廊下に出る〉

ぐー、ぱー：レモンといちごはわかったけど、
もう一つがわからない。なんだかわか
る？いちごはねー、わかるけど。いち
ごとレモン 〈何度も繰り返す〉。決ま
った。

先生：じゃあ、ちょきさんおいで！！ぐーチ
ームとぱーチームに答えてもらいまし
ょう。さあ何の果物が隠れていたかな？

ぐー、ぱー：レーモーンー。

先生：正解。

ぐー、ぱー：いーちーごー。

先生：正解。あと1個。

ぐー、ぱー：みーかーんー。

先生：せーの。

ちょき：ダメじゃ、ダメじゃー。

先生：正解は？

ちょき：すいか 〈小さな声でカードを見せな
がら〉

先生：今の勝負は一、ちょきチームの勝ち！！

ちょき：イエーイ！！ワーイ！！

先生：次は、ぱーチームの番ですよ。

ぱー：よっしゃー！！

先生：ぱーチーム、廊下に出ましょう！！

ぱー：〈トイレに集まっている〉

幼児教育における構成的グループエンカウンター実施の効用について

先生：なんで？

ばー：みんなが見に来るから！！

先生：〈カードを渡す（みかん男2人、バナナ男4人・女4人、キウイ女2人）〉

〈ぐー・ばーチームと同様に、ルールを教え発声練習をする〉

〈その間、クラスでは、ぐー・ちょきチームが問題を予想している子たちと「決まった」を言い続ける子たちとに分かれている。〉

先生：お待たせしました。またまた同じように果物が三つ隠れています。よく聞いて探してくださいね。同じ果物はありませんよ。せーの。

ばー：みかん！バナナ！キウイ！

先生：ばーさんは、廊下へ。みんなは相談してね。

ぐー、ちょき：「みかんだよみかん!!」「キウイもあったよー」〈と大さわぎ〉

先生：決まった？

ぐー、ちょき：みかん！みかん！

先生：みかんだけじゃないでしょ？

ぐー、ちょき：みかんにパインにキウイ。

先生：わかった、わかった。では、ばーチームさんの答えをお願いします。せーの。

ばー：〈一人だけタイミングがずれ、先にバナナと言ってしまう〉

ぐー：わかった！わかった!!バナナだよー。もうわかったよー。

先生：じゃあ答えてください。せーの。

ぐー、ちょき：みーかーんー。

ばー：〈みかんのカードを出す〉

ぐー、ちょき：バーナーナー。

ばー：〈バナナのカードを出す〉

ぐー、ちょき：キーウーイー。

ばー：〈キウイのカードを出す〉

先生：今のは皆が正解です。

ぐー、ちょき：イエーイ!!

先生：いやーみんなすごいね！聖徳太子になれそうだね。今度は動物でやってみようね。

子ども：イエーイ!!

先生：実はこのゲームは小学生や大人がやるゲームなんだけど、みんなとても上手でした。すごいねー。がんばったのでチャンピオンとしてお当番さんにスタンプを掌に押してもらいましょう。

子ども：やったー!!

* 2015年11月25日（水）11:00～11:25

保育室にて実施

3. まとめと今後の課題

（1）導入～衣装や言葉遣いの工夫の効用～

保育者が手製の烏帽子や笄を身につけ、聖徳太子という人物を想像しやすくすることで、子どもたちのエクササイズへの期待を高めることができたが、一度に7人の話を聞き分けることはすごいことだという実感は十分得られなかったようだ。保育者が小道具を身につけることに加え、聖徳太子が7人の話を聞き分ける様子を題材としたペープサート等を作成し演じる等の工夫があると理解が助けられたかもしれない。「ゆーてみよー」「よかろう」「ダメじゃ、ダメじゃー」等の昔の言葉遣いを取り入れることで大変盛り上がるが、初めて体験するゲームだったので、今回はルール理解に重点を置いて良かったのではないかな。

(2) 展開～みんなと協力し、役割を果たすことの楽しみ～

最初のチームが出題してみると、子どもたちはその面白さがわかり、楽しくなってきたようである。先生から問題を聞く際に、他グループに聞かれないようにと廊下ではなく自主的にトイレに先生を誘う程のチームの一体感や所属感が見られたことは予想外であった。

(3) まとめ～シェアリングの重要性～

時間の都合で十分なシェアリングができなかったが、SGE はエクササイズとシェアリングの二本柱で成立しているため、「今日の活動は楽しかったですか?」「友だちと協力できましたか?」「グループで工夫できましたか?」「自分の考えが言えましたか?」等の質問を投げかけ、活動を振り返り、まとめとすると良い。

エクササイズの途中で、「口をよく見ていると（言っている単語が）わかる」という発言をしている子どもがいたが、流れを止めて保育者から言語化することはしなかった。「人の話をよく聴こうとする姿勢を身につける」という観点からも、子どもたちの記憶に残るよう、最後にまとめとしてシェアリングを行い、明確に言語化すると良かった。

〈参考文献〉

- ・ 国分康孝 構成的グループエンカウンター 誠信書房 1992
- ・ 国分康孝・岡田弘 エンカウンターで学級が変わる 小学校編 図書文化 1996
- ・ 国分康孝 続・構成的グループエンカウンター 誠信書房 2000

・ 八巻寛治・高橋伸二 エンカウンターで学級づくり 12 ヶ月 小学校高学年 明治図書出版 2006